

ナレーション課題①『マイワシの引越し』

優しく、でもスピーディーに！（0秒～4秒）

トラックからバケツリレーで移されているのは、

はるばる愛媛県からやってきたマイワシです。（～12秒）

福岡市のマリンワールド海の中道では、

イワシの大群の動きに音楽や光を

合わせるショーが人気です。（～21秒）

ショーの主演、イワシは漢字で「魚へん」に

「弱い」と書くほどとにかくデリケート。（～29秒）

壁にぶつかりうろこが剥はがれるだけで死ぬこともあるので

年に1回、イワシを搬入しています。（～38秒）

飼育担当者は、

「先輩のイワシと分かれて行動しているが、

数日たてば仲良くなり、

迫力あるショーを見せてくれると思う」と

話していました。（～51秒）

2万匹が織りなすダイナミックなショーが、

きょうも訪れた人を楽しませています。（～59秒）

ナレーション課題②『命の紙芝居』

戦争体験者の証言を紙芝居にして

おおむた

後世に伝えている女性が大牟田市にいます。(0秒～9秒)

戦時中、工業の町として栄えた大牟田市では、

5度にわたる空襲で

1300人の命が奪われました。(～19秒)

そうした地域の人たちが語る戦争体験をもとに、

これまでに30作品を手掛けました。(～28秒)

この「命の紙芝居」を毎年、地元の中学生在が

平和教育の一環として朗読しています。(～37秒)

『裸同然の人たちが 髪の毛を前にたらし

うわごとを言いながらウロウロさまよっている。

ここはまるで地獄のようだ』(～51秒)

戦後生まれの女性が 体験者の話を紙芝居に、

それを令和の子どもたちに。(～1分1秒)

戦争の記憶を継承する

確かな形がここにあります。(～1分7秒)

ナレーション課題③お盆の風景 久富盆綱曳き

全身にすすを塗り、黒鬼くろおにに扮した子どもたち。(0秒～6秒)
頭には縄で作った鬼角おにつのを着け、

いよいよ出発です。(～12秒)

子どもたちは、わっしょい、わっしょいと

威勢のいい掛け声を響かせながら

およそ20メートルの

大きな綱を引き町中まちなかを練り歩きます。(～24秒)

これは筑後市ちくごで毎年開かれる

お盆の伝統行事「久富盆綱曳き」ひさとみほんづなひき。(～32秒)

およそ400年続き

県の無形民俗文化財に指定されています。(～39秒)

この盆綱引きは、鬼に扮した子どもたちが

大きな綱を引くことで、

地獄に落ちた人をお盆の1日だけ現世に引き上げ、

供養したいという気持ちが込められています。(～54秒)

参加した子どもは

「楽しい祭りなので

これからも続けてほしい」と

笑顔で話していました。（１分2秒）

江戸時代から続く伝統行事の歴史に

今年も新たな1ページが刻まれました。（１分10秒）